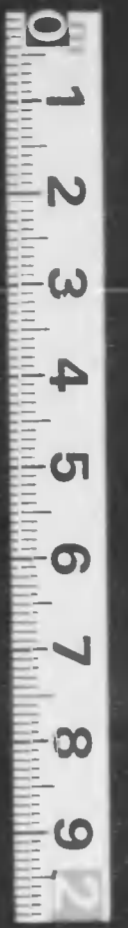




週寫真  
報真

編輯局報情  
三月二日 第七百七十一號



物が乏しいのが  
 生活がきびしいのが  
 日本人わたしたちに  
 それほど苦痛だらうか  
 大君に仕へまつると  
 御國を愛すと  
 生活の中に敵撃滅を營む  
 それだけで  
 日本人わたしたちはこよなく豊かに幸多いのだ

必勝に驀進する 第八十四回帝國議會



國內は勿論、大東亞共榮圈更に全世界の注目を浴びて一月二十一日再會せられた第八十四回帝國議會の劈頭、東條内閣總理大臣は演説を行ひ、現下における戦局の實相と、これに對處すべき政府の必勝攻勢の内外施策を闡明し、一億國民に一段の決意を促した。殊に戦局に關しては、敵の反攻はいよいよ熾烈を極め、その重大性は論を俟たないが、戦争の動向に漸く焦躁不安を感じつつある敵が、犠牲を顧みない無謀な反攻を繰返す好機を捉へて、その徹底撃滅を圖ることを強調し、必勝の要件としては戦力、殊に航空戦力の飛躍的増強、海陸輸送力の確保、食糧の確保につき、あらゆる措置を講じて萬全を期する旨を明らかにされた。また、戦争は結局敵國國民の意志と意志との闘ひであり、一億國民の胸奥に眠る玉碎魂の發揮されるころ、最後の勝利は必ず我等が頭上に在りと斷ぜられ、さらに結果なつた大東亞各國及び盟邦獨伊と共に、決戦の第三年を斷乎勝ち抜く定平たる決意を表明せられた。

# 守り抜かん南の基地

空軍に敵をり見の員備せしぞも来てけつやす必  
……にらぐしつてし預買地基地を空めらやけ明は



## ラバウル空戦の教訓

戦ひにあげ戦ひにくれる基地の生活は、炊爨の煙さへうかとはたてられない。撮影 瀨口海軍報道班員

わが重要據點、ラバウルを繞る日米の航空決戦は、新年に入るとともにいよ／＼苛烈の度を加へ、今後いよいよ熾烈化するものと見ねばならない。

さて、敵のラバウル爆撃強化に伴ふ最近のソロモン戦局は

一、敵機の來襲は、昨年末は隔日であつたが、新年ともにも殆んど連日となつた。即ち、今年一月一日から同十七日までの半月間に殆んど連日來襲、機数は實に千二十八機に上つた。

二、彼我航空決戦の距離が一時間以内に對峙することになつた。

即ち、ラバウルに對する敵の侵襲基地は、ブーゲンビル島トロキナ、ニューギニア島のラエ、サラモア等、沿岸各地、トロンリアンド島、グッドイナフ島、ニューブリテン島マーカーカス、グロースター兩岬等、戦間機が自由に活躍できる紙一重の距離にせばまつた。

一、一回の來襲機数がとみに増加して、『大舉爆撃』となつた。

一、敵機の來襲は、昨年末は隔日であつたが、新年ともにも殆んど連日となつた。即ち、今年一月一日から同十七日までの半月間に殆んど連日來襲、機数は實に千二十八機に上つた。

二、彼我航空決戦の距離が一時間以内に對峙することになつた。

即ち、ラバウルに對する敵の侵襲基地は、ブーゲンビル島トロキナ、ニューギニア島のラエ、サラモア等、沿岸各地、トロンリアンド島、グッドイナフ島、ニューブリテン島マーカーカス、グロースター兩岬等、戦間機が自由に活躍できる紙一重の距離にせばまつた。

一、一回の來襲機数がとみに増加して、『大舉爆撃』となつた。

即ち、七日には二百三十四機、十七日には二百機と昨年十一月二日の二百數十機以來杜絶したかたちの大舉來襲が半月の間に二回に上つた。

一、護衛戦闘機が急激に増加した。

即ち、従來の敵來襲機中、戦闘機と爆撃機との比率は、爆撃機が断然多かつたが、最近では双方殆んど同數、それが十四日の如きは、戦闘機二、爆撃機一といふ逆の比率を示した。

一、イギリス戦闘機が初登場した。

即ち九日の來襲敵機中にイギリスの戦闘機スピットファイアーが出現した。これは、昨年三月ポートダーウィン空襲の際に挑戦したことがあつたが、この方面では初めて登場したもので、米英聯合作戦の開始を示唆する。

などによつて特徴づけられるが、これに對して、わが海軍航空部隊、海上部隊ならびに地上部隊が奮勇よくこれを迎撃して敵機を殲け、わが戦果が來襲敵機數の三分の一から二分の一撃破と、遂次上昇カーブを描き、敵に與へた損害程度もまた撃破少く、撃墜一本になつてゐるとは注目し得る。

特にわが航空部隊が必死必殺、たぎり立つ海軍傳統の

機體のそここゝにあいた彈痕が死闘の空戦を語る。しかも修理なればすぐに再び飛立つのだ

大木登海軍報道部

とはいはぬ。過去一年半に、わが方が持つてゐた飛行機數の二倍の數さへあれば、必ず敵の侵襲を喰ひとめ、三倍になれば、斷乎進んで敵を撃滅し得る。斷じて勝つ。それが一刻おくれれば、苦しさは二倍三倍に加重してくるのだ。本當の意味での一機でも多くといふ言葉に、さらに一割も早くつけ加へて、私は心から叫びたい。それができれば、今こそ敵を徹底的に撃滅し得る絶好の時なのだ。

と語つてゐるが、この血の叫びを一億國民は夢にも忘れてはならない。これ程われ／＼の生産目標は、われ／＼の『もう一と頑張り』で達成されるほど、手近かなところにあるのであり、それがわれ／＼にできないはずは斷じてないのである。

敵も今や必死である。イギリス戦闘機や、缺點が多いためしばらく姿を消してゐたマーチンB26双発爆撃機までも狩り出し、ありつたけの機體と、あらゆる機體を總動員して、この反攻を反復強化しようとしてゐるのである。われ／＼は今こそ、この苛烈な戦局の新様相を正視し、われ／＼の一擧手一投足が直ちにラバウルの決戦場に結いてゐる事實を深く銘記すべきである。



# 護鎮の辺北壁鉄

習真季冬軍東

陸軍航空隊



決勝の第三年を迎へ、短期決戦を焦る敵は或ひはラバウル攻略を叫び、或ひは中央侵攻路を口に、さらに本土空襲を敢て立てるなど、大の速吠に似たその總反攻計畫を宣傳これ努めてゐるのであるが、大東亞廣域の各地を守備する皇軍將兵は、ひたすら寄らば斬らんすの凛烈な士氣を以て、これに一大痛棒を加へようとしてゐる。

殊に南方のあわだしい戦雲をよそに、悠々北方鎮護の大任を擔ひ、日夜血の訓練に勵む關東軍の精銳こそ、大東亞各戦線に磐石の重みを加へるものといへる。

北滿の極寒なもの、氷雪と闘つて完勝の氣を練る關東軍の威容に接し、われらまた心からその健在を祈らう。

↑ たぎりたつ雲を仰へながら、出發前の訓練を聞く兵隊たち

□ 寒風を衝いて舞ひ上る戦闘機隊の勇姿

白煙々の峻峰を越えて雲々の細線は進む 左頁



## 大東亞戦争日誌

十二月

八日 ●大東亞戦争開始以來二

本軍 二十七万七千名  
英軍 十二万二千名

十一日 ●中支那方面帝國陸軍部

飛行機隊 二機(七機)  
重砲隊 二機(七機)

十二日 ●支那方面帝國陸軍部

十六日 ●ビスマ方面帝國陸軍部

十七日 ●一、我軍は敵軍は十二

戦中より





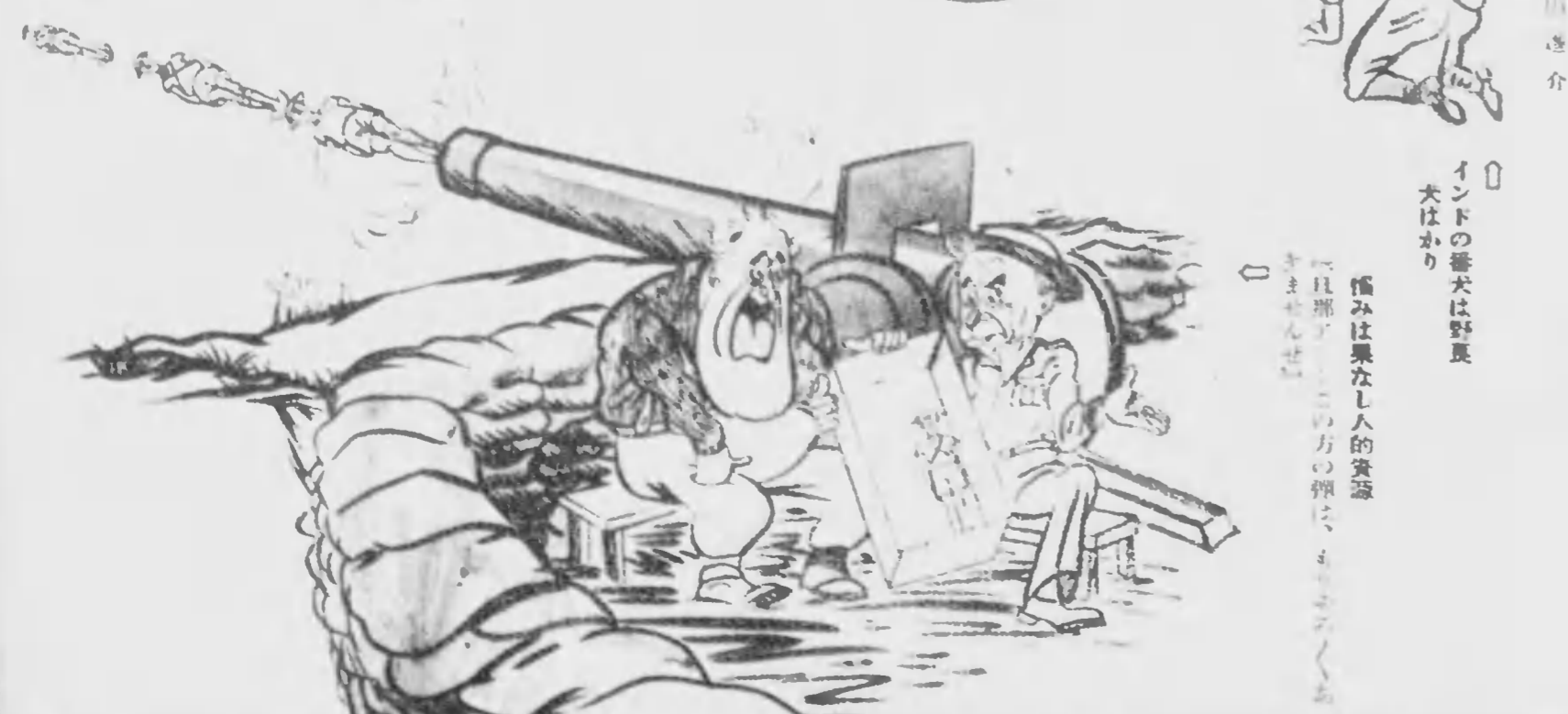
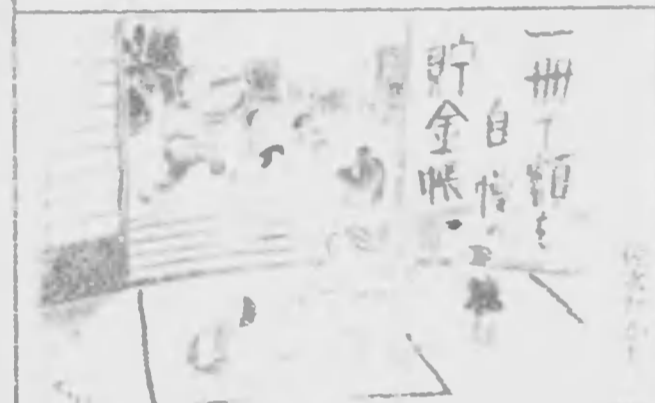
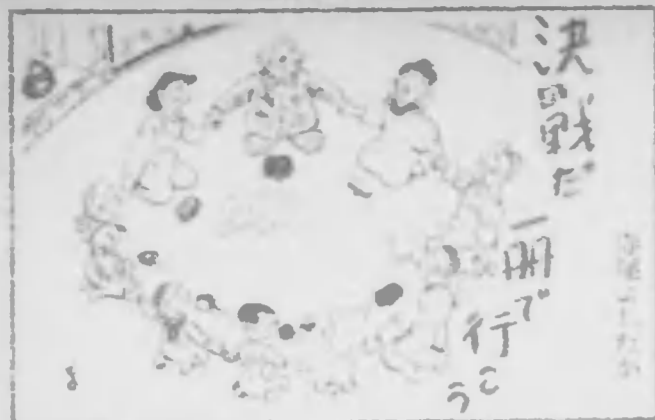








しな駄無に金貯



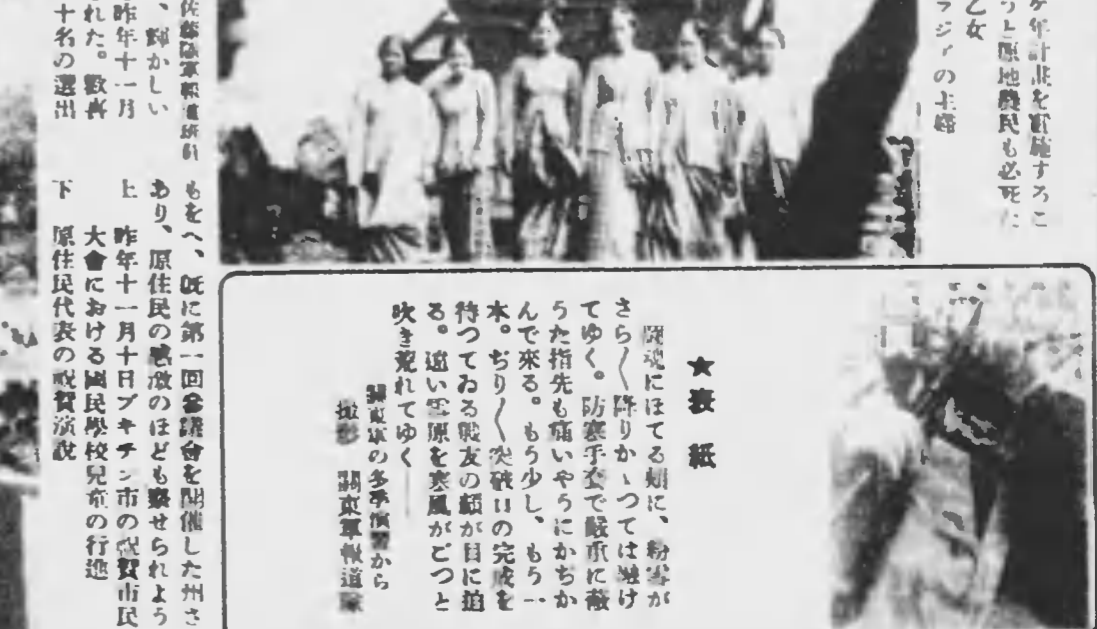
またしてもチンドンや

昭々たる

大東亞戦争漫画日記 お川逸介

インドの番犬は野良犬ばかり  
大ばかり

種みは果なし人的資源  
一旦崩壊した方の懐は、もはや空っぽ



通しい中国の再建  
廣東と香港を結ぶ廣九線は、わが工兵隊、鐵道隊の日に夜をこく作業につて、僅か一月で復旧したが、廣通に伴つて、沿線地区の市街も容易とる一方、米、甘蔗、棉花生、蔬菜などの物資が集まるものと見られ、中国復興は大いに期待される。昨年十二月二十八日の開通式。撮影 南支那通信社

セレスも食糧増産へ  
セレス島は南部が米の生産地で、これに自給できな北のセレスやブルネオなどに移出して来た。一昨年の年を迎へ、現地の食糧自給を目指し、南支那通信社

水稲二期作などによる米穀増産〇ヶ年計画を順進することなり、一般でも多く収穫しようとする地農民も必死に上米の獲入れにむかひ、ブルネオの乙女米を絶望の食糧におさめたラジの主婦

ビスマの日本語学校  
東島の指導者日本を知るには、先づ日本語から、言語の通じは、いまだ日本語に感えさかたつてゐる。首相ラングーンに、第三番目の日本語学校まで開設されたほか、各地にも開校の準備がすすめられてゐるが、それでも希望者は人学しきれないほど多いのだ。日本語勉強を辞めて懐合へ。先づアイウエオから学ばせよう。

政治参興に満くスマトラ  
東島を東亞人の手にとりかへず、刻かしい大東亞宣言に即つてスマトラにも昨年十一月八日、原住民の政治参興は実施された。数州に燃えたつ各州では州参議員二百十名の選出

既第一回参議會を開催した州さへあり、原住民の感激のほども察せられよう。昨年十一月十日ブキチ市の祝賀市民大會における國民學校児童の行進。原住民代表の祝賀演説

原住民代表の祝賀演説

★表紙

原住民にほてる朝に、粉雪がさらけ降りかゝつては、防犯手袋で股取に覆らた指先も痛いやうにかちかんで来る。もう少し、もう一本で来る。突如口の完成を待つてゐる股友の顔が目につく。遠い空原を寒風がごとく吹き死れてゆく。撮影 南支那通信社

